

アジア学科 卒業生の声

「アジア学科で“想定外”を楽しみませんか」

氏名：原 弘幸(2009 年度卒業)

[写真は 2013 年 10 月 ウガンダにて]



1. 在学中の思い出

語学の講義については、興味はあるものの成果は芳しくなく、常に落第気味だった記憶です。一方で外国語学部生らしく、インドネシアの文学作品を通してその当時の時代背景・歴史を学ぶ講義や域内の複数の国の経済の差異・特色を学ぶ講義などを、つまみ食いの的に楽しんでもいました。

2 年生を終えたところで大学を 1 年間休学し、留学しました。今考えると、帰国子女の同級生や留学する先輩たちの存在によって、自然と留学を決意していたように思います。語学の上達度合いはともかくとして、幅広い年齢・バックグラウンドを持つ日本人、様々な国からのクラスメイト、家族のように接してくれた現地人たちとの出会いは、私が持つ数少ない財産の一つです。

2. 卒業後の自分

同級生より 1 年遅れの卒業となりましたが、無事に自動車会社に就職し、生産管理部門に配属されました。新調したスーツはほとんど着られることなく、作業着を着て工場内の一角で業務に励む日々でしたが、社会人としての基礎力を培ったと思っています。

3 年ほど働いたところで退職し、JICA の青年海外協力隊事業に応募し、アフリカのウガンダという国に派遣されました。現地には 2 年間滞在し、市役所の一員として井戸の修理を促進し、支援する活動を行っていました。帰国後はインテムコンサルティング(株)という会社に就職し、開発コンサルタントとして働いています。アフリカの途上国に学校や病院を新設し、機材を供与するといった案件などに従事しています。

3. 高校生・在学生へメッセージ

高校生の頃は、大学に入って 4 年間過ごして、就職をした会社で働き続けながら、30 歳位までには結婚して子供を授かり、今頃は住宅ローンについて頭を悩ませてい

る人生を送るだろうと漫然と想像していました。幸か不幸か、これらは一つも当てはまりませんでした。

高校生の私からすると、想像の斜め上(もしくは下)に行く人生を歩むことになりましたが、その道中では想像すら出来ないルートで人生を突き進む勇者たちとの出会いもありました。

大学で皆さんが今持っている「想像」の幅をぜひ広げて下さい。大学にはそのための物や人が揃っています。アジア学科を入り口として世界の広がりを感じ、様々な将来を想像し、向かっていく刺激的な時間を過ごしてはいかがでしょうか。